

第104回 健康のススメ

板東 浩

私が東京へ出張するとき、必ず購入しているものが。映画や演劇などの公演がすべて掲載されている情報誌「ぴあ」である。羽田空港で入手し、モノレール乗車中の20分間で興味深い企画を見つけ出す。そして、空きの時間を利用し、いろんな企画に足を運ぶのが楽しい。

その「ぴあ」が11月から大きく変貌を遂げた。見かけは同じだが、内容が改善ではなく、改悪になったのか…と思う。今までは、数多くの催し物が小さな文字でぎっしりと記載されていた。しかし、「情報量が多すぎて、探して決めるのが面倒だ」という読者の声。各ジャンルで主なものだけを編集部が推薦することにしたのだ。

私は啞然とするやら、がっかりするやら。いったい何を考えているのであろうか。一見適切な対

応のようだが、実際には全く筋が通っていない。そもそも、情報誌とは、大規模で有名な公演はもちろん、小さくとも良質で今後発展が期待される団体も紹介しておくべきものである。

このような判断は、最近増えてきているようだ。なぜだろうか。インターネットで検索すれば、欲しい情報が瞬時に得られるのが常識となった。だから、時間をかけて調べて選ぶという作業が、手間がかかって煩わしいのだろう。

遊びやエンタメでも同様だ。もともと各人が求めるものは異なる。が、現代では、ほぼ万人に受け入れられる画一的なパフォーマンスが提供され、そのまま受容するだけ。何も考えず判断は人任せなのでとても楽だ。でも、この方向性で本当に大丈夫なのだろうか？ (医学博士、内科医)

「判断を任せてよいか」